

2020 年度日本高等教育開発協会研究申請書

2020 年 4 月 9 日

I. 研究名称

カリキュラムコンサルティングの方法の可視化

II. 研究代表者

中井俊樹（愛媛大学）

III. 研究組織

中井俊樹（愛媛大学）、竹中喜一（愛媛大学）、桑木康宏（学びと成長しくみデザイン研究所）、上月翔太（愛媛大学、非会員）

IV. 研究期間

2020 年 4 月から 2022 年 3 月

V. 研究の背景と目的

教学マネジメントの重要性の認識が高まり、カリキュラム編成に対する外部からのコンサルティングの必要性が高まっている。2020 年 3 月に開催された日本高等教育開発協会総会において多くの会員がカリキュラム編成に長期的に関わっている現状が明らかにされた。その一方で、カリキュラムのコンサルティングは個々の会員の取り組みの域に留まり、その方法論は会員間で広く共有されてはいない。そこで本研究ではカリキュラムコンサルティングの方法の可視化を試みる。カリキュラムコンサルティングの方法の可視化が達成されると、広く日本高等教育開発協会の会員の実践の質の向上ならびに、次世代のカリキュラムコンサルタントの育成にも資することが期待される。

VI. 研究の計画

カリキュラムコンサルティングの方法を可視化するために、本研究では、優れたカリキュラムコンサルティング活動を行っている者を対象とした質的調査を行う。対象者は日本高等教育開発協会会員に加えてカリキュラムコンサルティング活動を行っている教員や団体職員を含む 10 名を予定している。質的調査においてはインタビュー調査を行う。

インタビュー調査では、1. 「カリキュラムコンサルティングとはいかなる仕事か？」2. 「カリキュラムコンサルティングはどのように進められるか？」の二つを

主たる観点とし、この二つの観点に関わる質問（以下の表を参照）へのそれぞれの回答を整理、分析する。1. の観点はコンサルティングの前提として、それぞれが自らのコンサルティングの仕事をどのようなものとして捉え、また、クライアントに対して自らをどのように位置づけているのかを言語化するものである。この1. の観点を前提として、2. において実際のコンサルティングのプロセスとその実施方法について可視化を試みる。

表:二つの観点と関連する質問項目

観点1. 「カリキュラムコンサルティングとはいかなる仕事か？」
(1) コンサルティングに対する理念 (2) コンサルティングの役割と立場 (3) コンサルティングの期間と頻度 (4) コンサルティングの広報と契約交渉 (5) コンサルティングの技能を向上させる取り組み
観点2. 「カリキュラムコンサルティングはどのように進められるか？」
(6) 契約にいたるきっかけ (7) 現状分析の工夫 (8) 改善案策定の工夫 (9) 合意形成に向けた工夫 (10) 活用するツールや技法 (11) フォローアップの工夫

VII. 助成金の使用計画（単位:万(円)）

2020 年度		2021 年度	
関連書籍	10	関連書籍	10
消耗品	5	消耗品	5
国内旅費	5	国内旅費	5
謝金*	10	謝金*	5
		冊子印刷費	5
合計	30	合計	30

注) 日本高等教育開発協会会員以外の者へのインタビュー対象者への謝金。

VIII. 成果の公表方法

日本高等教育開発協会の研究会や総会などにおいて進捗状況を報告し、最終的には研究成果をまとめた冊子を発行し会員へ配付を計画している。